

## 1 現状と課題

- (1) 平成13年度から開始した健康ひょうご21大作戦において、個人の健康づくりへの啓発、実践活動を支援してきたが、働き盛り世代を中心に約3割の数値目標が悪化している。
- (2) 企業団体の総会、研修会などで健康づくりチャレンジ企業制度をPRしているが、登録した支援メニューの活用が伸び悩んでいる。
  - ・健康づくりチャレンジ企業登録数：131社（H26.3.4現在）
  - ・周知方法：新聞（ネット含）、機関誌、啓発チラシ配布 4万枚

〔働き盛り世代（成人期）の健康づくりの課題〕

区分	内容	
生活習慣病予防	健康チェック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健診未受診者が6割（特に中小企業従業員と被扶養者の受診率が低い）。</li> <li>・メタボリック該当者が40代以降で増加傾向、予備群も同様。</li> <li>・要治療でも放置している者が4割（30代、糖尿病の場合）。</li> <li>・健診未受診の理由は、「面倒」「時間がない」「必要性を感じない」。</li> </ul>
	運動	・運動習慣が定着していない者が7割。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食を食べない人の割合が20～30代で男女とも他の年代より高い。</li> <li>・野菜不足の一方で脂肪摂取が多い。</li> </ul>
	たばこ	・20～40代の喫煙率が高い。
歯及び口腔	・進行した歯周病を有するものの割合が40代で約4割と急激に増加。	
こころ	・自殺者の6割が働き盛り世代層である。	

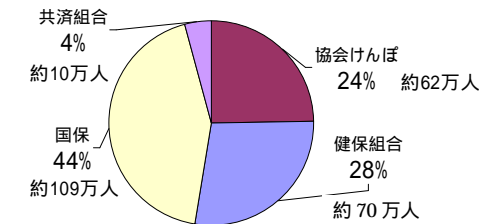
## 2 受診率の現状

### (1) 保険者別受診率

	特定健診		特定保健指導	
	H24	H29目標	H24	H29目標
市町国保	32.5	60	19.1	60
国保組合	24.8	70	5.9	30
健保組合	被保険者	86.6	単一90	23.1
	被扶養者	29.4	総合85	22.7
協会けんぽ	被保険者	45.2	65	6.9
	被扶養者	20.1		0.9
共済組合	被保険者	91.5	90	22.7
	被扶養者	49.6		6.8
全国	44.9	70	17.5	45

H29目標は、厚労省検討会資料より

< 特定健診対象者の保険者別割合(H24) >



## 3 健康づくり審議会、8020 運動推進部会、地域・職域連携推進協議会における意見・指摘事項等

### 〔効果的な事業展開や働きかけについて〕

#### (1) 中小企業への効果的な事業展開について

- ・企業内でも、管理者からの健康を認識した働きかけ、全社的な取り組みが必要である。担当部署や多方面から繰り返し勧奨することは効果的である。

#### (2) 地域の中での効果的な事業展開について

- ・神戸新聞社と歯科医師会、歯科衛生士会等が連携し、市内動物園で幼児の歯科健診を実施したように、企業、団体がレジャーと健康づくりのコラボを実施。気軽に、身近に、楽しいという視点での事業の組み立てや、家族と一緒に健康づくりの取り組みが必要である。
- ・産業医がいない小さな企業は、地域産業保健センター等を活用したり、複数の企業で産業医を選任したりすることも効果的である。（地域資源の活用）

#### (3) 若い世代への働きかけについて

- ・若い世代の情報元はスマホやネットが中心であるため、伝えたい情報はスマホ、ネットの活用をすることが効果的である。
- ・若い世代に健康意識が低いという問題は、中・高校、大学で健康に関する教育を強化することが重要である。
- ・健診がなぜ必要なのか、何を調べる検査なのか等、きめ細やかな情報提供を、個々に発信することが効果的である。

#### (4) 定年後や非正規職員の健康管理について

- ・定年後は、健康への関心が高い反面、健診実施も自己管理となるため、健康づくりの働きかけが必要である。
- ・非正規職員や健康弱者への健診や健康づくりの働きかけが必要である。